

長官とか大臣とかになると、役者として一枚も二枚も上なのだろう。目つきといい、声といい、話をするテンポといい、ゆうゆうたる構えといい、二枚目役者の風格十分というところである。

一つおいて、隣に居並んだのは、大場水質保全局長と自然保護局長のほずである。それらのそうそうたるメンバーが国会議事堂の風景を背にして、目の前にずらりと鎮座ましましてゐる。

長官の後ろには秘書官、進行係とボディーガードと、その他もろもろを受けもつのだろうか、空手の二く三段はできそうな、おそろしくがんじょうで、背が高く、頭もきれそうなのが、立つたままひかえている。

その横では、十数人の速記者、新聞記者とおぼしい人たちがしきりにメモをとっている。

中央の大テーブルの上に、二万四百人の、霞ヶ浦浄化のための請願書が、デンと置かれて、その前に、我が土浦の自然を守る会の七人のさむらいが並んでチンマリすわっている。

少々迫力にとぼしいのは、我が会のいつものことなので、やむを得まい。

考えてみたら今日は、こともあろうに霞ヶ浦湖畔の国民宿舎に、国体に出席された天皇、皇后両陛下がお泊り

になるという。霞ヶ浦にとって由緒ある記念すべき日なのである。

自然を守る会のメンバーの中の天皇ファンは、「天皇陛下がお泊りになるのはうれしいけれど、霞ヶ浦の水の匂いをかいで『チンは臭いぞ』とおおせられたらどうしよう」と我がことのように気をもんでいる。夏の間の、その国民宿舎のあたりは、アオコが発生して、近くに行くだけで硫化水素独特の何ともいえない臭いがしていたのは事実だから心配するのも無理からぬ話なのである。まして、水生動植物の専門家であらせられる陛下は、水を見れば必ず、そこに住む動植物のことをお考えになるにちがいない。それがアオコだけ……など聞いたらさぞガッカリなさるだろう。

「十万人の都市で、二万人以上の署名をとったというのは、大変な努力ですね。」

毛利長官は、署名簿を大切なものでも扱うように、ていねいにめくって見入っていた。

「署名運動をする前に、まず飲料水についてのアンケートを二千三百人の人について行ないましたところ、七十五％の人が不安を感じながら飲んでいるという結果が出ました。市内の水道水の使用者だけにしぼると、実に八五％の人が不安を感じているのです。」